

# 令和3年度 福島市在宅医療・介護連携支援センター 事業実績表

		月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
① (ア)地域の医療・介護資源の把握	情報収集（医療・介護）	病院 MSW、包括支援へ訪問を中心にヒアリング →							県北緩和ケア社会資源情報収集協力 →								
	専門職・市民へ周知	情報収集、ホームページを中心に案内・提供															
(イ) 課題抽出と対応検討	運営協議会意見交換	会議にて活動報告 <b>運協会議</b> →								<b>運協会議</b>							
	事業活動について随時	包括と連携し地域会議へ参加 →															
(ウ) 切れ目ない在宅医療	在宅医療機関の現状と課題を把握	福島市在宅医療ネットワーク現状把握アンケート →								集計							
	MSWと地域医療会議					①MSW と研修								②MSW、CW 地域連携研修			
② (オ)相談受付	相談受付・記入・集計	→															
	関係機関への課題と対応策の提案																
(キ)市民周知	市民向け講演会								企画 →				3/17 講演会				
	包括区域での研修	包括、民生員と協働 →															
	市民向けミニ講座	随時		→													
(工)情報共有の支援	退院調整ルール評価	モニタリングアンケート調査依頼						集 計 →			評価研修準備						
	ICT 説明・活用研修会									活用・実践事例研修							
	在宅療養支援者確認シート作成																
(カ)研修企画	研修会企画・開催	(認知症)				①認知症ケア				②認知症スクリーニング				③認知症対応カステップアップ			
		(終末期を中心に)								終末期支援研修							
	多職種連携支援	①フレイル研修第2弾				①ZOOM ミニ学習会				②フレイル研修第2弾				②ZOOM ミニ学習会			
③ 対策の評価・改善	①退院調整ルール連絡漏れ率（プロセス評価） ②自宅死亡率（プロセス評価） ③在宅医療の訪問患者数（プロセス評価） ④在宅医療の訪問患者率（アウトカム評価） ⑤自宅看取り数（プロセス評価） ⑥診療所数（ストラクチャー評価） ⑦在宅療養希望率（プロセス評価）				(評価指標根拠)				①県北地域退院調整ルールアンケート ②厚生労働省「在宅医療にかかる地域別データ」 ③④⑤⑥県北在宅緩和ケア社会資源情報 ⑦福島市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査						改善に向けた事業計画		

# 令和3年度 4月～9月 福島市在宅医療・介護連携支援センター 活動報告

## (ア) 医療・介護資源の把握

令和3年度計画 (Plan)	活動内容 (4月～9月) (Do)	評価(Check)/改善(Action)
①ホームページ作成 ・情報収集(医療・福祉)と提供 ・各団体の研修案内ページの作成	<ul style="list-style-type: none"><li>・ホームページの周知、随時情報の更新</li><li>・事業所検索にもの忘れ相談医を追加掲載</li><li>・各包括、医療機関等の活用できる情報を随時追加掲載</li><li>・出席できない方へ研修会報告の掲載(写真、アンケート結果)</li><li>・ホームページ閲覧数 月平均 3710件 (1日平均123件)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・コロナ禍により、各事業所間の情報共有が困難になっていたため、当センターホームページを活用し情報の共有を図った。</li><li>・閲覧数は増加している。 月平均閲覧数比較 昨年度上半期 3,092件</li></ul>
②専門職・関係者、市民への周知	<ul style="list-style-type: none"><li>・資源の把握のため市内地域包括支援センター訪問22か所(7月,8月実施 把握した現状のまとめは【資料】参照)</li><li>・県北地域在宅緩和ケア社会資源情報誌作成協力</li><li>・もの忘れ相談医の把握(随時更新)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・コロナ禍により直接会する機会が減り情報の共有が難しくなっていることを把握</li><li>・対策のひとつとして、当センターHPの活用を提案し情報掲載を実施</li></ul>

(イ) 課題抽出と対応検討

令和3年度計画 (Plan)	活動内容 (4月～9月) (Do)	評価(Check)/改善(Action)
①運営協議会意見交換	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年8月 運営協議会 書面開催 (令和2年度下半期事業報告・資料送付後の質問への回答)</li> </ul>	<p>書面開催のため運協委員からの意見等を直接聞くことができなかった。オンラインでの実施も検討必要。</p>
②地域会議への参加 (事業活動について報告)	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月、包括ケア推進室、市保健所地域医療政策室と定例会の開催</li> <li>7/8福島市オレンジプラン推進委員会</li> <li>8/26心の声アンケート検討委員会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定例会では、地域の課題を報告と検討</li> <li>各種事業実施後は実施状況をホームページに掲載</li> </ul>
③関係団体会議出席	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度 医療と介護のネットワーク定例会 (7/29) 30名</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>5/28、9/2 認知症疾患医療センター連携連絡会 (zoom) (もの忘れ相談医対象連携強化研修・包括との連携強化に対する事業実施の協力)</li> <li>福島市介護支援専門員連絡協議会役員会 (4/23、5/27、9/16 )</li> </ul>	<p>地域包括ケア推進のためにこの団体の活動は重要と捉えており、活動の継続、充実に向けて事務局機能を果たしていく。 集まるリスクを避けてZOOMを使い開催。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域支援の課題や事業実施についての情報を確認、把握する</li> <li>研修会実施の際は協力していく</li> </ul>

## (ウ) 切れ目ない在宅医療

令和3年度計画 (Plan)	活動内容 (4月～9月) (Do)	評価(Check)/改善(Action)
①在宅医療機関の現状と把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福島市医師会が「福島市在宅医療ネットワーク」の現状把握アンケートを実施。アンケートにて新規患者対応可能、かかりつけの患者のみ、事例に応じて要相談の区分を反映したものを作成。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年ごとの意向調査となるため、今後も作成時には現場の意見を取り入れ活用しやすいものにしていく</li> <li>・福島市の在宅医療のニーズと充足率を明確にしておくことが必要。</li> </ul>
②アウトリーチ (同行) 支援システムの構築	<p>現在実施している、大崎市、松戸市医師会の資料を参考に、方法、手順、依頼文書を準備。</p>	<p>医師のアウトリーチが実施できる体制準備について市医師会へ相談する必要がある</p>
③MSWとの地域医療会議	<p>医療ソーシャルワーカーと福島市ケースワーカーとの合同研修会を準備 (2月実施予定)</p>	<p>ZOOMでの実施方法を検討しながら実施したい</p>
④医療と介護のネットワーク充実支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新年度、事務局委員の選任、事務局会議開催 (5/18)</li> <li>・会の位置づけを明確化するため設置要綱の見直し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケアシステム構築のための重要な機関であることから、しっかりした組織として持続可能な体制を作っていく</li> </ul>

## (工) 情報共有の支援

令和3年度計画 (Plan)	活動内容 (4月～9月) (Do)	評価(Check)/改善(Action)
①退院調整ルール評価	「退院調整ルール評価アンケート」 福島市分の調査票送付 (居宅89箇所、包括22箇所) 回収、集計の実施	評価研修は開催なし。評価会議は必要であるため後期には実施できるようZOOMなどWebでの開催を県北保健所と検討する 【参考】福島市の結果 回収：居宅81箇所、包括21箇所 もれ率：予防22.3% 介護10.4% 全体17.9%
②ICT説明・活用研修会	地域の活用状況についての情報収集を実施 (MCS利用状況、テイジンからの情報提供など)	ICTの活用を推進するにあたり、どのシステムがいいのか、それをどのようにして決めるのか、検討が必要 在宅医が中心となってICTのチームを作るのが普及につながる と感じている
③在宅療養支援者確認シート作成	活動なし	作成にむけた準備(情報収集)を進める ワーキンググループの設置も検討していく

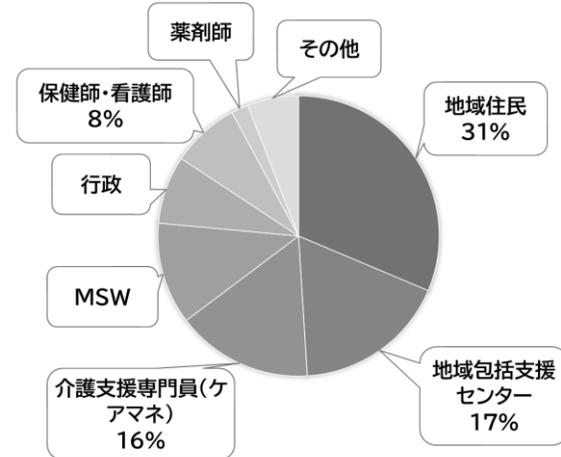
## (オ) 相談受付

令和3年度計画 (Plan)	活動内容（4月～9月）(Do)	評価(Check)/改善(Action)
①相談受付・記入	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談件数 51件（月平均8.5件）</li> <li>時間外や土日祝も電話を受けられる体制を継続</li> </ul>	<p>【相談方法】「電話」76%「来所」20%「メール」4%</p> <p>【相談者】計51人 内訳：包括9件、ケアマネ8件、住民16件、行政4件、MSW6件、看護師4件、薬剤師1件、その他3件</p>
②相談内容の整理	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談内容 延べ55件 (1件の相談でも複数の相談項目有)</li> <li>対応 延べ78件 (対応項目も複数有)</li> <li>相談内容、対応の内訳は グラフ 参照</li> </ul>	<p>【相談内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前年同様「医療、介護の制度、サービスの情報提供」が最も多く、次が「在宅医療」となっている</li> <li>住民からの相談が多かったが、内容は、在宅医療を受けたいがその手続きや在宅診療の医師を知りたいといった内容であった。コロナ禍で在宅のニーズが増えているのではないかと印象がある。</li> <li>「その他」16件のうち、7件がCOVID-19に係る相談で、在宅療養者のワクチン接種の方法、感染対策を考慮した研修会の開催への助言等であった</li> </ul> <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「助言」が最も多だが、助言のみは少なく、約半数は「担当窓口の紹介」や「連絡調整」と合わせての助言である</li> <li>相談内容が複数あるような困難ケースでは、話を聞き相談内容を整理して助言することが必要となっている</li> <li>COVID-19に関する相談では、相談者の不安解消が図れるようエビデンスのある説明が求められることから、市保健所と連携を図って対応している</li> </ul>
③関係機関へ課題と対応策の提案	<p>定例会および運営協議会にて報告 相談実績から課題の検討</p>	<p>【実績からの検討課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>困難事例の相談に対応できるよう相談スキルを高めていくことが必要である</li> <li>在宅医療や受診に関する相談に対しては、医師との顔の見える関係づくりやアドバイスを得られる仕組みの検討が必要</li> <li>COVID-19対応に関する相談では、市全体の課題として対応すべき事案は市保健所、市長寿福祉課の各担当に情報提供を行い対応を依頼していく</li> </ul>

# 相談内容と対応

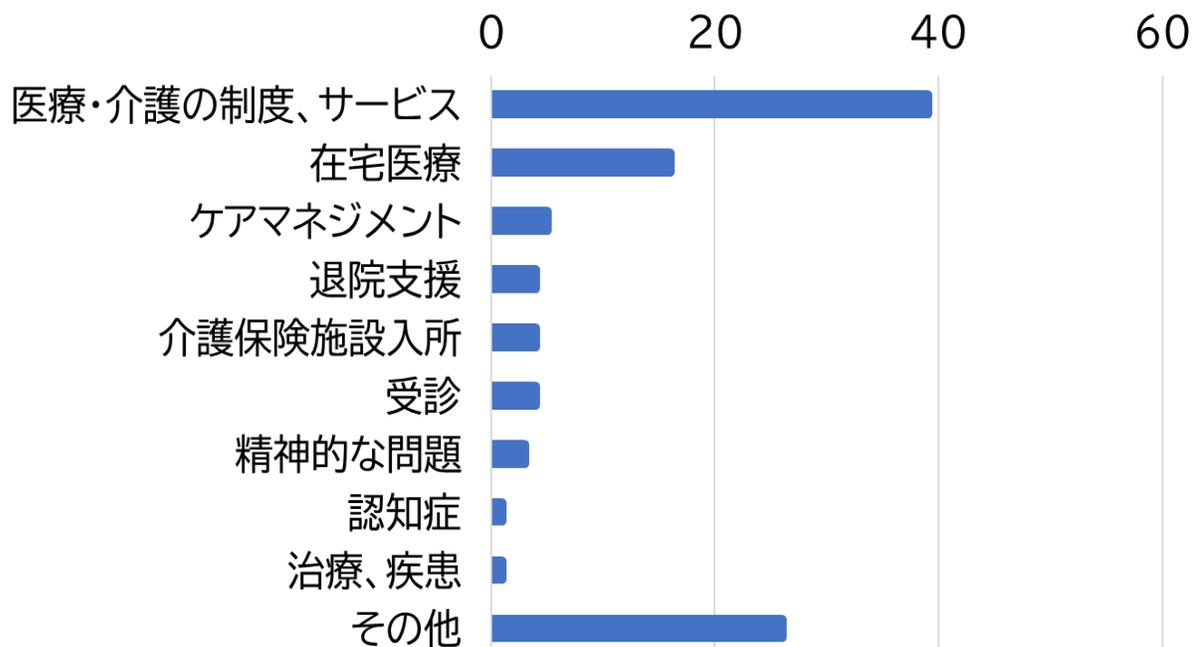
令和3年上半期(4月～9月)相談件数 51 件

【相談者51人の内訳】



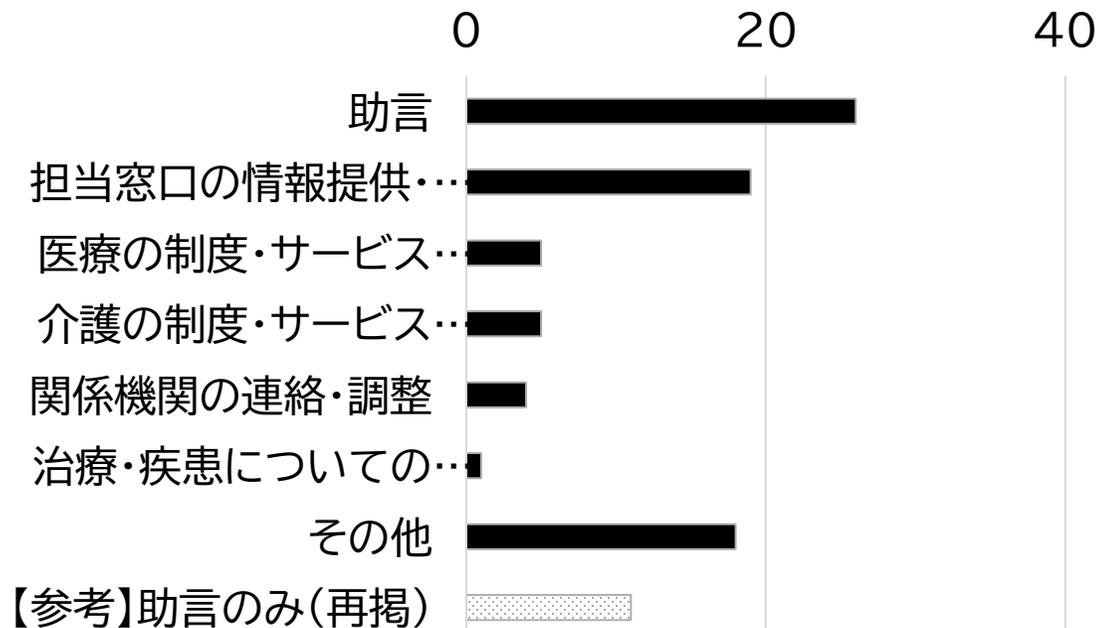
## 相談内容(延べ55件)の内訳

(件)



## 対応(延べ78件)の内訳

(件)



(カ) 研修企画

令和3年度計画 (Plan)	活動内容(4月~9月)(Do)	評価(Check)/改善(Action)
①研修会企画・開催	<p>「医療福祉セミナー」の実施(Web配信研修)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・7/15 第16回「在宅医療の悩み、解決します！」 橋本孝太郎先生 申込者298名 再生回数492回</li><li>・8/17 第17回「フレイルシリーズ第5回社会的フレイルの症例」 済生会福島MSW石井健氏 他4名 申込者192名 再生回数358回</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・在宅医を対象の主とした研修を始めて実施した(医師の参加 ) 今後も医師が参加しやすいテーマの研修を企画していく</li><li>・申込み・視聴回数等が、集合研修を上回る状況にあり、対象となる専門職もオンラインでの研修に慣れてきていると感じる</li><li>・集合研修が実施できるようになっても、Web配信研修も継続する意味はあると思われる</li></ul>
②多職種連携研修会 他団体の研修会協力・ 案内協力	<p>依頼による研修協力</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・6/4 福島県認知症治療とケアを考える会Web配信 「当センター相談事業から考える多職種連携について」</li><li>・7/7 令和3年度伊達市医療と介護の連携研修 「高齢者の在宅ケアを支えるために ~医療と介護の連携を考える~」</li><li>・10/12もの忘れ相談医医療連携フォーラム 準備 「在タッチ相談事業等から考える医療・介護の連携について」</li></ul> <p>開催案内協力</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・多職種連携について、連携の実態や連携のための方法についての関心が高く、講義の依頼があった</li></ul>
③主任介護支援専門員 フォローアップ研修	<ul style="list-style-type: none"><li>・「スーパービジョン」についての研修会開催を検討</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・包括連協ケアマネ部会等と連携しながら現状に合った有意義な研修を開催していく</li></ul>

(キ) 市民周知

令和3年度計画 (Plan)	活動内容 (4月～9月) (Do)	評価(Check)/改善(Action)
<p>①市民向けミニ講座</p> <p>(1) 在宅医療について</p> <p>(2) 私の人生ノート書き方</p> <p>(3) (1)(2)両方</p>	<p>(1) 4/1 岡部町内住民グループ (8名)</p> <p>5/13 鎌田地区「新寿会」 (12名)</p> <p>6/18 清水地区「清水フレッシュレディー」 (28名)</p> <p>(2) 5/6 岡部町内住民グループ (8名)</p> <p>5/27 もちずりゆうゆうセミナー (22名)</p> <p>6/11 熟年パワースクール (23名)</p> <p>7/2 野田明大学級 (23名)</p> <p>(3) 5/24 三河台地区社協 (37名)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染拡大防止対策を取りながら実施</li> <li>・今後も、市民向けに周知、共催できる包括や病院、事業所を増やしていく</li> <li>・今後は、ACPやエンドオブライフケアについて、別の媒体（もしバナゲーム等）を使った市民啓発も考えていく</li> </ul>
<p>②包括区域での研修会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7/20 「私の人生ノートの活用について」 杉妻地域包括支援センター (25名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 包括と関わりのある団体むけに合同で実施できた</li> </ul>
<p>③市民向け講演会開催</p>	<p>3月24日開催に向け準備中</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和4年3月24日録画、3月30日～配信予定</li> <li>・ 3月号市政だより掲載予定</li> </ul>	<p>新型コロナ感染症対策のためオンラインでの開催とする</p>

## 関係市町村連携

令和3年度計画 (Plan)	活動内容 (4月～9月) (Do)	評価(Check)/改善(Action)
<p>近隣市町村や県内で開設している在宅医療・介護連携支援センターと情報共有や情報交換</p>	<p>9/1 福島県在宅医療・介護連携支援センター主催 県内在宅医療・介護連携支援センター会議 (Web開催)</p> <p>・県内の各センター間では、必要時メディカルケアステーション (MCS) のグループ機能を使用しての情報交換を実施</p>	<p>・県主催の会議は、Web開催ということもあり、県センターからの報告は十分だったが、センター間の情報交換は難しい</p> <p>・必要時気軽に活用できるMCSでの情報交換が有効</p> <p>・在宅医療・介護連携推進事業の関係市町村連携は市町村業務から都道府県の役割に移行となったが、情報共有など必要なことは、継続していく</p>

## その他の対策

令和3年度計画 (Plan)	活動内容 (4月～9月) (Do)	評価(Check)/改善(Action)
① AYA世代のがん医療情報と支援取組	9/14 福島県地域医療課へ要望について説明 6/2～ 福島市保健所地域医療政策室との情報交換の実施	・令和4年度の事業化にむけて、県地域医療課と福島市保健所地域医療政策室との情報交換を継続
② 障がい者支援	・相談業務を通して、障がい者(難病・精神等)に関わる内容について市保健所、障がい福祉課、医療機関と連携を図った	・地域支援では、介護保険だけでなく、障害福祉や難病支援等との連携も必要である ・今後も、センター事業に活かせるような情報交換を継続していく
③ 医療・福祉職人材育成	・県介護支援専門員法定研修講師依頼への対応	・在宅医療を支える人材の育成は必要 ・講師依頼があれば、協力していく
④ 学会、研修等参加	・令和3年度 日本在宅医療連合学会 (11月27日・28日) (Web開催参加 ポスター発表)	・研修で得た知識等を業務に活かす ・次年度も継続して相談業務のまとめを報告

# 福島市在宅医療推進に関する指標（昨年度作成）

	指標となる項目	評価の基準（在タッチ設置前データ）	令和2年度把握データ
1	退院調整ルール 連絡漏れ率	平成30年度 包括18.2% 居宅10.9% 計12.3%	令和2年度 包括 20.8% 居宅 8.5% 計 11.8% (県北退院調整ルール評価アンケート令和2年6月、7月)
2	自宅死亡率	19.1% 厚生労働省「在宅医療にかかる地域別データ集 平成29年」 (更新日：令和元年6月19日)	20.3% 厚生労働省「在宅医療にかかる地域別データ集 令和元年度」 (更新日：令和3年2月25日)
3	在宅医療の訪問患者数 (訪問実施実人数)	2,961人 平成31年1月改訂県北地域在宅緩和ケア社会資源情報（平成30年調査・回答医療機関数 31か所）	2,501人 令和3年2月改訂県北地域在宅緩和ケア社会資源情報（令和2年調査・回答医療機関数 32か所）
4	自宅看取り数・診療所数	422名・23か所 平成31年1月改訂県北地域在宅緩和ケア社会資源情報（平成30年調査・回答医療機関数 31か所）	395名・24か所 令和3年2月改訂県北地域在宅緩和ケア社会資源情報（令和2年調査・回答医療機関数 32か所）
5	自宅療養希望率	32.2%（できるだけ自宅で療養し必要なら病院） 32.7%（自宅で死を迎えたい） (令和元年度、介護予防・日常生活圏域二一ズ調査)	*二一ズ調査の結果は別紙参照 アンケートの選択項目に重複して回答しているため、どの項目を指標とするか検討が必要。

※3,4に関してはアンケート調査形式のため、確認作業もしくは東北厚生局へ情報を請求するなど、今後において参考となる指標にするための検討が必要